

区医だより

発行●浪速区医師会 編集●広報部

巻 頭 言

「大阪メンタルヘルス総合センター」
の取り組み

生 野 照 子

(社会医療法人にわ生野病院 心療内科部長)

子どもは、人生の基礎となる重要事項の多くを学校で学びます。言うまでもないことですが、勉強、遊び、クラブ活動などを通して人間関係の基礎も身につけます。通常、乳幼児期の愛情依存対象は「親」であり、準拠集団は「家庭」ですが、学童期頃になると「親的存在としての教師」へと移行し、子どもは「学校」を社会的準拠集団と見なすようになります。そして対人関係においても、仲間関係を発展させ、異性関係や社会生活関係などへと広がっていきます。

こうした子どもの成長や学びに介在する大人は、家族に次いで教師であり、私たち自身の学校生活を振り返っても先生に関わる思い出は尽きないことでしょう。叱られたことやイヤだったことも含めて、やはり人生の大切なことを経験させてもらったように思います。大学においても、恩師の薫陶を受けて人生の羅針盤を得た人は少なくないはずです。

私的な話で恐縮ですが、私は小児科医として出発した関係で、学校の先生とのつながりが不可欠であり、いろいろと話し合いをするようになりました。その後、子どもの病態には心身両面のアプローチが必要だと考えて心療内科にシフトしていったのですが、小児心身症が専門となると学校との繋がりがいっそ

う強まるようになりました。そこで医療と教育の研究会を作ったり、共同研究をするようになったのですが、連携を介して多くの先生方と協働する中で、大阪には生徒の問題に真摯に取り組む素晴らしい先生がいらっしゃるなあと感じ入ったものです。その後も仕事や役職を通じて学校との関係が頻繁になり、再々と教育現場に出向くようになりました。学校には学校支援や講演などで行くのですが、行くたびに、身を粉にして生徒を支えておられる先生方と出会い、感動を覚えて帰ってくるのでした。そうした経験を通して、厳しい生活状況の大阪では特に、子どもにとって学校という存在が如何に大きいかを再認識しました。それと同時に、頑張る先生ほどストレスが多いということも知ったのです。その一方で、学校現場からの声として、「ストレスに悩む子どもを援助したいのだが、専門的アドバイスが得にくい」、「医療の協力を求めたいが、なかなか連携先がみつからない」、「医療者は忙しそうで相談をもちかけにくい」などの意見が聞こえ、医療との距離感が大きいと感じられたことも事実です。

2008年から浪速区で外来を行うようになり、釜が崎でのお手伝いもするうちに、学校状況の厳しさをさらに痛感することになりま



した。そこで、まことに微力ながら「少しでも」という気持ちで、児童生徒の問題に対してアドバイスをを行う無料相談「専門家サポート外来」を設けて先生方のお話を聞くようになりました。

以上のような経過を辿って、このたびは公立学校共済組合大阪支部の委託を受けて、なにわ生野病院に「大阪メンタルヘルス総合センター」を9月1日にオープンすることができました。センターは、気軽に心の専門家に相談できる窓口として、「元氣な教職員、元氣な学校づくりのために」がキャッチフレーズです。教職員が元気になることは、当然ながら子どもたちも元気になることです。センターの受診対象者は府下全域の公立学校教職員とその家族で、約10万人です。

当心療内科には、非常勤も含めて医師3名、臨床心理士14名のほか、ソーシャルワーカー、管理栄養士、メンタルメイト、リカバリー相談員、コーディネーターなどが所属し、統合的なチーム医療を行っています。センターはチームメンバーが結集して相談にあたり、サポート外来での経験を有効に機能させるようにプログラムを組んでいます。

相談事業は、以下の2項目です。

- ①セルフケア：個人的なこころの健康に関する相談（3回まで無料）であり、相談スタッフは臨床心理士であり、必要に応じて心療内科医・精神科医・児童精神科医・一般診療科の医師が担当します。
- ②ラインケア：管理職からの職場環境や教職員のメンタルヘルスなどに関する相談であり、専門医や心理系教授が当たります。完全予約制で面接相談は無料。

その他の事業としては、つぎの3項があります。

- 1) 教育センターなどの関係機関と連携し、メンタルヘルスに関する研修を実施する。
- 2) 心身の健康をテーマとする講演会やメンタルヘルスに関するセミナーや、学校などの所属機関などで開催するメンタルヘルスに関する研修会などに講師を無料派遣する。
- 3) 生徒指導に関するアドバイスを心療内科

医師・児童精神科医師・臨床心理士などが行う（従来の「サポート外来」を引き継ぐもの）。

以上、浪速区の先生方へのご挨拶をかねて、当科の活動を報告させて頂きました。

センター活動は、教職員やご家族からすでに多くの申し込みがあり、医療・教育・司法などのご協力を得て活発に動き出しているところです。

最後になりましたが、相談内容で身体面あるいは精神面で「治療が必要」と判断されれば、本人が希望される治療機関にご紹介することになります。ご多忙中を申し訳ございませんが、そのような場合、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。また、地域の学校から講演会や研修会の依頼があれば、専門領域のご講義などをお願いすることもあるかと存じます。浪速区の医師先生方にはこれからお世話になることが多いと思いますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

